



# 令和7年度 東京都立白鷺特別支援学校 学校経営報告

令和7年度は都立白鷺特別支援学校創立40周年の節目の年を迎えます。過去の足跡を振り返りながら、新たな10年の方向性を定め、本校の教育活動を充実させるだけでなく、生徒たちのくらしの場である江戸川区の特別支援教育のさらなる推進と理解推進に努め、学びをくらしにつなげる学校としての確固たる足場を固めると共に、地域への提案を担う学校を目指して取り組みます。

新型コロナウイルス感染の対策のための様々な制限はなくなり、より積極的な教育活動が可能となりました。その中で、職業教育の更なる充実を軸に、障害特性に応じた指導力を高め、特に青年期の心と体の取り組みの充実を図り、健康で健やかなくらしの実現が図れる生徒の育成に力を注ぎます。

社会の変化の速度はますます早くなり、その結果、日常生活や職業生活、余暇や娯楽といった部分についても多様な価値観への対応が求められています。旧態然とした企業倫理や社会通念は打ち砕かれ、より一層、自分の思いや願いを伝える力が求められる世の中になりました。本校は、校内の研究研修活動を充実し指導力を高めると共に、様々な外部専門家や関連機関の力を活用しながら、社会の要請に応え、説明責任を果たせる教育活動の実現に力を注ぎます。

最後に、本校が、生徒・保護者、教員のみならず、かかわる全ての人が、顔の見えるつながりを築き、生徒の成長に力を発揮できる関係づくりの中心となれるよう力を尽くします。

## I 本校の教育

### 1 目指す学校

#### 学びをくらしにつなげる学校

- ◎学び                   とは 学校での教育活動全てのこと
- ◎くらし                とは 主に家庭生活、職業生活、余暇活動のこと
- ◎つなげる             とは 江戸川区や卒業後の関連施設との情報共有や具体的な継続支援のこと

### 2 目指す生徒

#### 地域で元気にくらしていける人

- ◎地域                   とは 自分がくらす江戸川区のこと
- ◎元気                  とは 意欲があり健康な事
- ◎くらしていけるとは できることは自分でやること

### 3 目指す教育

- これまでの学校教育で培った「できる」を「つかう」に深化させる教育
- 卒業後のくらしに役立つ学びと意欲を高める教育
- 障害が中・重度の生徒の社会参加の力になる教育
- 社会に特別支援教育や障害がある人のくらしを提案できる教育

## II 中期的目標と達成に向けた方策

### 1 一人一人のくらしにつながる教育の実現

- (1) 卒業後の豊かなくらしの実現のための指導の充実を図る。  
⇒江戸川区発達相談・支援センターによる応用行動分析の研修会を実施し、指導力向上を図った。
- (2) くらしの質の向上を図るための指導の充実を図る。

⇒外部専門員と連携し、くらしやすい体の使い方につながる運動を生活単元学習に取り入れた。

(3) 健康・安全（防犯・防災）に関する指導の充実を図る。

⇒土曜日に保護者参加型の防災学習をテーマにした授業参観を実施した。

## 2 授業力向上のための人材育成

(1) 外部専門家を有効に活用し、より効果的な指導の実現につなげる。

⇒外部専門員による専門性を生かした教員向け研修会を実施した。

(2) 研修活動の活性化のための体制整備を推進する。

⇒研究授業に参加しやすい授業体制作りを推進した。

(3) 若手・中堅・ベテラン全てが意欲的に授業づくり取り組む環境づくりを整備する。

⇒研修担当の主任教諭を中心に、初任・二年・三年次対象の「YOJT」、主任教諭が培ったノウハウを紹介する「AOJT」と、体系的に整理し取り組んだ。

## 3 社会の変化に対応する効率的で説明責任を果たせる運営

(1) デジタル活用を促進し、変化の速い社会への対応を推進する。

⇒ICT機器を授業教室に近い部屋に常設するなどして、ICT機器活用を促進させる取り組み等を行った。

(2) 授業づくり・専門性向上のための時間確保を推進する。

⇒短縮授業にして、業務日を設けたり、会議設定を変更し、会議を設けない曜日を設けたりした。

(3) 働き方改革の促進のための校内組織等の体制を整備する。

⇒職員室の環境を整備した。また、ホワイトボードへの手書きの掲示から、モニターを設置し入力の電子化を図った。

## 4 多様な働き方を実現する職場環境の整備

(1) 各種制度を活用しライフスタイルに応じた働き方が実現できる職場環境を構築する。

⇒年休や時差通勤・部分休業を取得する意識が定着し大きく残業をする教員がほぼいなくなった。

(2) 相互補完を実現し、人材育成につながる指導及び業務体制を構築する。

⇒YOJT、AOJT等校内での人材育成を意識するスタイルが確立してきている。メンター制度も今後より有効に活用ができるよう、整備を進める。

(3) 教職員の健康増進とメンタルヘルスの維持・向上につながる体制及び環境づくりを進める。

⇒週時程の変更や空き時間の増加、短縮日の設定を増やすなどの対応等を行い、教員の業務時間を昨年度以上に確保できるようにした。

## Ⅲ 今年度の取組目標と方策（学校経営目標・行動計画）

### 1 くらしにつながる学びの実現

(1) 変化の速い社会に対応する新たな学びの仕組みを立案し発信する学校を目指す **推Ⅳ-2**

⇒外部専門家から助言を受けたり、地域の支援団体の方を講師に招へいし、講演会を行うなどし、現代社会の教育や生徒を囲む環境の状況・課題を学ぶことができた。

(2) 地域資源を生かした、卒業後の意欲につながる新たな活動を生み出す学校を目指す

⇒Blue Sky Marketをより生徒主体で企画・運用できるよう工夫し、社会との接点を増やしていくことにより卒業後主体的に生活する意欲の基礎を学べるようにした。

(3) 類型化した教育課程を生かした新たなキャリア教育を提案し進路指導の充実につなげる **推Ⅲ**

⇒Ⅱ類型はより専門的な教科、Ⅰ類型はより包括的な教科を設定し、類型の実態に合わせた学

- 習を行うことで、それぞれのライフスタイルに合わせたキャリア教育を実践する環境を整えた。
- (4) 地域で安心してくらすために必要な知識・技能の獲得するための授業づくりを推進する  
⇒江戸川区と連携し、模擬選挙など生徒の実態に見合った主権者教育を実施した。路線バスでのマナーや自転車の安全な乗り方等の学習を、生活指導部を中心に指導を行った。
  - (5) 卒業後のくらしにつながる学びの充実とデジタルを活用した学びの共存を提案する 推Ⅲ2  
⇒江戸川区障害者支援アプリ「ミライク」や「江戸川区防災アプリ」などを学習内で活用し、一人1台端末を積極的に活用しながら、生徒がICTに触れる機会を多く設定した。
  - (6) 外部専門家を活用した新たな心と身体の学びを提案し、卒業後のくらしにつなげる  
⇒心理の専門家による生徒全員面接を行ったり、作業療法士による体の取り組みを学ぶ機会を設け、卒業後の生活を意識したアプローチを行った。
  - (7) 創造的な学習活動・芸術文化的学習活動・体育的学習活動等の充実を推進する 推Ⅲ  
⇒「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」に参加し、弦楽四重奏やアフリカンミュージックに触れたり、葛飾ろう学校での交流やデフリンピアンの講演会を通して手話の学習体験を行った。
  - (8) 生徒の意欲が高まる、部活動の充実を推進する 推Ⅲ3  
⇒地域のイベントや祭りに参加し、舞台発表を行っていく中で、自分の見知っている土地で活躍する喜びや自己肯定感を得ることができた。
  - (9) 学校図書館を活用した言語活動・読書活動の取り組みを充実させる 推Ⅲ-2  
⇒教科の学習の中で図書室を利用したり、読書週間を養うため置いてほしい本のリクエストを行ったりした。

## 2 地域と連携した特別支援教育の理解推進

- (1) 地域の特別支援教育及び障害者理解の推進につながる取り組みを充実させ発信する 推Ⅳ-2  
⇒江戸川区と連携し、地域住民とのスポーツ交流会を開催したり、江戸川区長杯ボッチャ交流大会に参加したりして、障害者理解推進につながる取り組みを行った。
- (2) 地域資産を生かしたくらしにつながる多様な学習活動を提案し、実践する  
⇒今年度から新たに「船堀コミュニティ会館」に清掃班が出向いて清掃をする活動を実施し、生徒の地域貢献における意欲向上を図ることができた。
- (3) 地域の特別支援学校及び高等学校、教育委員会との連携・協同性を構築する 推Ⅲ-1  
⇒江戸川区内にある都立鹿本学園と連携し、本校の清掃班が鹿本学園に出向き、出前授業を行ったり、鹿本学園の生徒が本校の授業を見学・体験したりすることで、学習活動の連携を深めた。
- (4) 高等学校及び関係諸機関等への相談・授業支援等を推進する 推Ⅳ-2  
⇒特別支援教育コーディネーターを中心に高等学校へ出向き、受けた相談に対して専門的な助言等を行った。
- (5) 外部専門家を活用した新たな心と身体の学びを提案し、卒業後のくらしにつなげる  
⇒作業療法士の指導・助言を受けながら、生徒の生活につながる身体の学びを深めた。40周年記念公開研究会では作業療法士による「くらしにつながる身体の取り組み」をテーマにした講演も実施した。
- (6) 地域中学校等と連携した円滑な入学相談業務を実現し、入学後の生活に活かす 推Ⅳ-2  
⇒区内中学校等に向けて、入学相談が円滑に推進できるよう、学校関係者向け入学相談説明会を実施した。
- (7) 保護者等への相談・研修・理解推進活動の積極的に推進する 推Ⅳ-2  
⇒区内の産婦人科の助産師を講師に招き、PTAを対象に性や発達に関する研修会を実施した。

### 3 卒業後の安心・安全な暮らしにつながる学校生活の実現

- (1) 支援学校・支援学級との引継ぎ・連携を十分に図り課題のねらいを明確にした指導に活用する  
⇒入学前に支援学校・支援学級及び関係機関との引き継ぎを行い、入学後も必要に応じて連携を図りながら、生徒への適切な指導へつなげた。
- (2) 健康で充実した学校生活を送るための学校保健活動や健康教育を推進する  
⇒健康相談、歯科保健指導等を中心に、生徒が自らの健康に留意する習慣づくりを促進した。服薬に関する出前授業は保護者も参加し、より暮らしにつながる取り組みとすることができた。
- (3) 高い人権意識による体罰・不適切な指導の根絶、いじめ及び児童虐待の未然防止の推進  
⇒いじめアンケートや生徒の様子の変化に応じ、学校いじめ対策委員会を適宜開催し、関係する教員が情報共有をした上で生徒対応に当たることで、問題を未然に防いだり、早期解決を図ったりすることができた。
- (4) 地域・関係機関等と連携を図った安心・安全な暮らしにつながる指導の推進 **推Ⅲ-2**  
⇒消防署、警察署、都営交通局などの関係機関と連携し、防災や防犯、公共交通機関の利用や交通安全教室を実施する等、生徒が安全にいらしていくための学習機会を設定した。
- (5) 保護者と共同・協力した暮らしにつながる安全教育及び防災教育を実現する **推Ⅲ-2**  
⇒宿泊防災訓練を発展的に解消し、代わって保護者の参加、地域とも連携した防災訓練を実施した。防災に向けた意識の向上を図ることができた。

### 4 教育公務員としての資質及び専門性の向上

- (1) 組織的な人材育成を土台とした専門性の向上と教育公務員としての資質向上を実現する  
⇒様々な役職の教職員から自らの専門知識を若手教員に対して伝える校内研修を34回実施した。専門性の向上や教育公務員としての使命感を養成することができた。
- (2) 活発な相互授業参観と校外の研修会を活用した専門性を向上する  
⇒年次研修の研究授業に加え、OJTの一環として主任教諭による授業公開をはじめとした相互授業参観を行った。また校外の研修会で得た知見を校内での研修報告会等で報告しあうことで専門性の向上を図ることができた。
- (3) 経営方針を理解した積極的な経営参画と提案による組織の活性化を目指す  
⇒目指す学校像である「学びを暮らしにつなげる学校」をスローガンとして様々な機会で発信することで、学校全体で共通理解を深められるようにした。目指す学校像として全校職員に浸透した。
- (4) 各種法令・規定等を遵守した職務行動の徹底により服務事故を防止する  
⇒定期的な服務研修により、継続的に事故の防止を図っている。法令遵守に向けた意識の向上に向け、自転車に関する道路交通法改正などタイムリーな情報も周知している。
- (5) 個人情報適正に管理し、規則・規定に則った職務行動により紛失事故の防止を徹底する  
⇒長期休業前後などの個人情報の取り扱いが多くなる時期に注意喚起を行い、事故防止に向けた意識の徹底を図った。
- (6) デジタル活用の進展を生かした効率的な公務の実現とライフワークバランスを確保する  
⇒情報部が中心となつてのデジタル端末機器活用の講習会や研究部が行ったデジタル端末活用に関する研修の実施により、デジタル活用の促進を図った。

### 5 組織力の発展・向上と組織的対応力の発揮

- (1) 担任間・教科担当間の情報共有と協力体制を強化し助け合える体制づくりを行う  
⇒作業班長会、教科会を定期的に設定し、課題や実態の共有を行った。

- (2) 各自の強みや研修成果を SELA としてまとめ授業力並びに支援力の強化・向上につなげる  
⇒各自の研究成果を研修報告会で発表し、さらに資料データとして Teams で共有することで授業力・支援力の向上へとつなげることができた。
- (3) 教職員個々の能力を最大限に引き出すための組織力の強化・伸長のための体制整備を充実する  
⇒それぞれの教職員の得意分野を、授業や分掌業務で生かせるように、担任配置や業務分担を工夫した。
- (4) 経営企画室と協同した教育環境の整備を推進する（トイレ全面改修及び厨房改修等）  
⇒トイレの全面改修と厨房改修に加え、転落防止用のセーフティネットをベランダに設置し、安心できる教育環境を整備した。

## 6 働き方改革の実現に向けた方策

- (1) デジタルを活用した多様な働き方に対応する新たな職場環境を提案し実現する 推Ⅲ-2  
⇒Teams から休暇申請ができるシステムの構築等、デジタル活用環境の整備を推進した。
- (2) 一般需用費のセンター契約率60パーセントを達成する  
⇒一般需用費のセンター契約率は、65パーセントを達成した。次年度以降、より高いセンター契約率を意識して予算申請にあたっていく。
- (3) 校舎内外の改修・整備を進め働きやすい職場環境の実現を図る  
⇒職員室にモニターを設置し、板書をデジタル化する等、職場環境を整備した。
- (4) デジタル活用の特色を活かした業務の効率化を推進する 推Ⅲ-2  
⇒授業で活用できるプロジェクトの数を増やし、自由にデジタルを活用できる環境を整備した。
- (5) 健康診断の受診率100%を達成し、それを活かした健康な職務の実現を図る  
⇒健康診断の受診率は99%だった。次年度以降、100%を目指して取り組んでいく。
- (6) 教職員のやりがい広がる職務を提案し、健康で意欲的な働き方の実現を提案する  
⇒40周年記念行事の一環として、職員室のミーティングスペースを整備し、活用しやすい環境を整えた。

### 《令和7年度の取り組み目標を推進するための主な数値目標 - Shirasagi GOAL12 -》

- ① 授業力向上のための相互授業参観による指導助言力のブラッシュアップ … 参観率80%以上
- ② SELA（旧シェア・サポート研修）での教材展発表/校外研修報告 …… 一人 1 回（全員）
- ③ 校外の研修会への参加と校内への還元による組織的な授業力の向上 …… 延べ60回以上
- ④ 授業改善・授業力向上のための外部専門家の活用 …… 満足度 70%以上
- ⑤ 地区拠点校として都立高等学校等への支援のための連携・訪問支援等 …… 9回以上
- ⑥ 個に応じたキャリア教育の推進による生徒個々の進路指導の実施 …… 満足度90%以上
- ⑦ 心理の専門家による面接の実施等、心の指導の充実 …… 満足度 70%
- ⑧ 江戸川区と連携した防災教育の充実 …… 満足度 80%以上
- ⑨ 体罰、個人情報に関わる服務事故の根絶 …… 各々事故 0 件の維持
- ⑩ HP（ホームページ）を有効活用した広報（X の活用含む） …… 更新年100回以上
- ⑪ 学校評価アンケートの保護者回答率の向上 …… 前年比10%以上
- ⑫ 職員健康診断の受診率の維持・向上 …… 全教職員100%